

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110317328		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよた		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-25		
自己評価作成日	平成29年8月15	評価結果市町村受理日	平成29年9月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0110317328-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは鈴木内科医院に併設、24時間対応訪問看護などの医療連携体制がありターミナルケアも実践しております。
認知症の方々のケアについて『ユマニチュード』という優しさを伝えるケア技法の研修なども受けており、認知症の専門スタッフとしてケアを行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の、緑豊かな住宅地に位置する2階建て1ユニットの事業所である。近くには、病院・コンビニ・小学校・公園等があり、バス停も近く利便性が良い。また、隣が運営母体である医院なので、体調の変化に直ぐに対応が出来、利用者・家族・職員も大きな安心感に包まれている。定期的で開催する運営推進会議には、利用者家族・町内代表・包括支援センター職員・消防署員等が参加し、行事予定と報告・防災計画・地域との交流や家族の意見要望等、活発な意見交換を行い、ケアの充実と事業所の運営に活かしている。単調になりがちな事業所での生活が活性化するように、近隣散策・菜園作り・レクリエーション・行事等の楽しみ事の支援をしており、職員はフランス発祥の認知症ケアの方法、『ユマニチュード』で利用者を優しく支え、安心・安全なケアを提供し、信頼関係と馴染みの関係の中で共に過ごす時間を大切にしている。防災面にも配慮し、水害時の訓練も実施しマニュアルを作成している。近隣住民とは、買物や散歩時に気楽に挨拶を交わし、さらに町内会主催の季節ごとの行事にも参加するなど、良好な関係を築いている。地域に根ざした家庭的で温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を意識したケアプランとその実施を行なっている。	運営母体である医療法人の理念『Love and Care』を基に、事業所独自の理念を作成している。法人の理念と事業所の理念は事務所やリビングに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会(清田十五日会)への参加 子育てサロン(きよっちクラブ)への参加 町内会展示会への出品などを実践している。	老人会・子育てサロン・町内展示会の参加や、小学生と朝の挨拶運動等、積極的に地域に出掛け交流をしている。交流することで近隣住民と挨拶を交わし、良好な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校、児童と朝の挨拶運動を行なっている。地域へ出て交流する事で理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、老人会会長、地域包括支援センター、福祉の町推進センターの方々家族に参加してもらい意見を求め向上に努めている。	運営推進会議には、家族・町内会役員・地域包括支援センター職員・消防署員等が参加し、活動報告・防災管理・事故報告等の話し合いを行っている。家族の参加が多く、意見交換や交流の機会がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報を積極的に取り入れている。	札幌市からの情報を重視し、水害時を想定した訓練やマニュアルを作成している。また、消防署や地域包括支援センターなどの助言を得てサービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は開放し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。事業所として身体拘束排除に取り組んでいることを表明する宣言書を、玄関に掲げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止セミナー等への職員研修をすすめ参加している。「虐待防止発見チェックシート」などを活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修にて制度の理解を行なっています。その他外部での研修などにも参加し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、細部まで説明し理解して頂いています。改定の際は運営推進会議の場で説明を行ったり、毎月のお便りで説明を行なっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族には面会して頂くようお願いしています。その際最近のご様子をお話し、ご家族様の方からも意見などが無いかを聞いています。	運営推進会議や行事には、多くの家族が出席し意見交換をしている。毎月一回『事業所便り』『ホーム長通信』『鈴木内科便り』を家族に送付して、事業所での生活が家族に伝わるように配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議にて個人の意見がないか個別で確認、意見があれば経営会議にて発表している。	月1度開催する、全体会議で職員の意見や提案を聞いている。また、運営母体である法人の事務長との個人面談もあり、積極的に職員の意見や要望を聞く機会を設けている。アミーバ経営を採用し、全職員が経営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営管理部の方が定期的に職員と面談、やりがい、長期、短期の目標を聞き取り職場環境の整備に力を入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内での研修会、外部研修会参加することを積極的に推奨しています。院長みずから研修会の講師に立ち、各部署持ち回りで研修テーマを決め発表なども行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に連絡を取り合い、管理者会などで情報の交換するなど、管理者会主催の研修会を開くなどして交流、関係を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の初期段階ではアセスメントを十分に行い本人が安心して過ごせる対応を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のコミュニケーションも大切に考えており、話しやすい雰囲気と関係作りに努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族様と面接を行なっています。関係機関からの情報提供もお願いし初期支援の対応努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のレベルに合わせながら家事等の参加してもらい共により良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には行事の参加やご自宅に帰ったりと家族で過ごす時間を大切に出来る様に支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のリハビリセンターに友人に会いに行ったり、面会に来られた際には居室で過ごす時間を大切にしています。	事業所行事には利用者の家族を招待し、家族の絆を大切にしている。家族と共に昔馴染みの理容室や墓参りに行き、以前からの関係を維持できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中のレクリエーション活動の提供により入居者様同士が関わりを持てるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も気軽に立ち寄っていただけるように関係作りを行なっています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時には、必ず本人の意向を聞いている。困難時には本人本位に検討している。	センター方式を活用し、家族から得た情報や日頃の行動・表情、過去の生活歴を基に個々の思いや暮らし方の希望や意向を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族から聞いています。センター方式等を活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子は記録や申し送りで把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様から意向を聞いている。サービス担当者会議を行ない、本人、ご家族様を含め話し合っている。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化や対応について家族・職員・医師と話し合い、利用者がより良く暮らせるための介護計画を作成し、ケアに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、共有しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域との活動に参加し、ニーズは可能な限り対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会(清田十五日会)への参加 子育てサロン(きよっちクラブ)への参加 町内会展示会への出品などを実践している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で支援しています。緊急時かかりつけ医に連絡、24時間訪問看護も必要時活用しています。	運営母体である医院とは渡り廊下で行き来でき、緊急時には直ぐに医師や看護師が駆け付けて来れる。往診や訪問看護もあり、必要時には24時間体制の医療支援を受けられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、法人内訪問看護が医療連携にきてくださる。必要時は医師の指示のもと24時間体制の訪問看護とも連携を行なっています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様と医師との面談も必要時行ないホームにて対応可能なら早期退院支援を行なっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、訪問看護師と連携をとり行なっている。ご家族様とは必要時医師との面談を行ない方針を決め一体になりケアを行なっている。	入居時から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを説明している。終末期の看取り経験があり、運営母体の医療法人が隣接しており、安心感がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会、研修会、訓練を実施しスタッフが緊急時に慌てず対応できるようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は年2回、水害による避難訓練も年1回行なっている。地域との緊急時の対応の意見交換も行なっている。	火災の避難訓練の他に、水害による訓練も行っており、マニュアルも整備している。地域の自治会や町内会と災害時の協力体制を確保していると重要事項説明書に明記している。	地震対策として、利用者の居室を点検し倒れる危険のあるものを洗い出し、転倒防止対策と、地域の防災訓練の日を確認して、参加するよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人、その人にあつた適した声掛けをスタッフ一同理解し行なっている。	利用者の尊厳を大切にして、ユマニチュードの技術で優しく接している。個人情報に関する書類は、適切に管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意向、ご家族の意向は極力希望に沿うよう支援しています。自己決定の難しい方には選択肢を与えその時に適した支援を行なっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の対応には力をいれ支援している。過去どのような生活歴か把握し参考にし希望に沿えるよう支援を行なっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日に気温に合わせて、洋服が適しているか、もし適していなければ声掛けをさせてもらっている。アクセサリーなどでも楽しみを提供させてもらっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に無理のないような作業やおやつ作りなど調理の準備や後片付けまでスタッフと共に行なっている。	食事の準備・盛りつけ・後片付けを一緒に行う事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。また、職員と共に季節に合わせた菓子や漬物を作り、季節感も味わっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせた食事量、形態で提供させてもらっている。自力での食事が難しい方は会話などを行ない、一緒に食事を行なっています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行なっています。理解が難しい方などはそばにて声掛けを行なっています。定期的に訪問歯科にも来ていただき、口腔ケアの指導をもらっています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人、1人の排泄パターンをもとに、声掛けや介助を行なっています。自分で迷いなくトイレまで行けるよう、貼り紙で誘導しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導している。4ヶ所あるトイレは使いやすく整備されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行ない、牛乳、ヨーグルトを提供しています。便秘や軟便が続く方には医院に相談、医師の指示のもと下剤、整腸剤を服用しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2回入浴されています。入居者様の羞恥心に配慮し極力同性での介助を行なっています。入居者様の状態に合わせて入浴時間、温度など調節しています。	一人ひとりの希望に合わせた入浴支援をし、リラックスして入浴できるようにしている。また羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。浴室は、改装しており清潔である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、各居室の温度や掛物には気を付けています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療後服薬に変更がある際は、全スタッフに周知してもらうよう送り表に記入、口頭での説明を行なっています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好みに合った毎日のレクリエーション活動や、定期的に個別に外出したりなど楽しみを持てるよう支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を取り入れながら外出行事を設けたり予定を立てている。小学校の見守り等も行なっています。参加できそうな行事に関してはご家族様にも声掛けしています。	季節や天候によって、庭での外気浴・菜園の手入れ・近くの公園まで散歩・町内会行事の参加、花見や紅葉狩り等のドライブ外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームの金庫で管理しています。必要に応じて用意し入居者様に買い物や食事等を楽しんでいただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を使用している。職員から手紙の返信など行えるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の管理をしたり掃除や換気を行なっています。また季節に合ったかざりを壁に飾り、好みの歌の歌詞を貼ったりしています。	リビングの窓からは、小学校の校庭で運動する児童や道行く人を眺めることが出来、共用空間の壁には、利用者の手芸作品が飾られている。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファやテーブル席でそれぞれ好きな場所で好きなように過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が混乱してしまうものは本人、ご家族様と相談し回収し使い慣れたものを置き快適に過ごせるよう配慮している。	家族と相談し、それぞれの家庭から馴染みのある家具や日用品等を持参し、家族写真や思い出の品を飾り清掃もいき届き、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや転倒防止の動線、トイレや居室が分かるように工夫している。		